

2024年度 施策マネジメントシート【2023年度実績評価】

作成: 2024年5月29日

施策番号 1-2-2	施策名 地域資源を活用した観光の振興	農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり	基本目標
			政策名 農業と連携した活力ある商工業と観光物産の振興
	主管課 魅力創造課	課長名 西田昌樹	内線 233

施策関係課
生涯学習課

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果		
農業や景観、食など本町の地域資源を活かした観光による魅力づくりを行うため、本町のブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客の促進を目指します。		町外観光客		・観光客の滞在時間と日数を増大させ、観光消費の拡大を図る ・観光資源が認知され、新規観光客とりピーターを獲得する			芽室町が道内・国内・海外に発信される 交流人口の増で消費の拡大につながる		
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 芽室町外からの観光入込客数	十勝総合振興局まとめ	人/年	160,800 (R3)	118,400				169,000	
② 新嵐山スカイパーク利用者数	魅力創造課調べ	人/年	273,520 (R3)	6,821				288,000	
③									
④									
成果指標設定の考え方	①②年約1%増加を目標とし、5年間につき5%増で設定								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	184,473	268,664			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(基準年との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	新嵐山の休業による利用者数の減
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しい <input checked="" type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	観光客の入込客数については、日高山脈国立公園化の活用および、令和6年度に成案化した観光ビジョンに基づき、体系的に、事業連動、公民連携しながら観光まちづくりを進めて行くことから、現状より成果向上は期待できる。 新嵐山の再開が可能となれば目標の達成は可能である。

(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	町観光・特産品普及事業、観光物産協会運営支援事業、ふるさと納税特典贈呈事業等の事務事業においては、新規事業等の実施をはじめ、コロナ後の順調な事業実施、推進をしている。 新嵐山スカイパークについては、令和5年10月に運営会社の経営破綻により営業を休止し、再生に取り組むための「あり方の骨格」を令和6年3月に策定している。

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	コロナ禍における施行、実証、実践を、コロナ後にしっかりと成果につなげるために進めてきたが、新嵐山の休業は町のさまざまな事業に大きな影響を及ぼしており、「計画策定時と比較して後退した」と評価した。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○

A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した
E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	『施策を取り巻く状況』 <ul style="list-style-type: none"> ・営業を休止している新嵐山の再生に向けたグランドデザインの策定と施設整備の検討。 ・観光業の回復、国立公園化など、国内・海外の観光客の動きの加速、復調がみられる。 ・新たな観光の形へのニーズ対応と、受け入れ側の対応が望まれる。 ・観光・物産の振興においては、地域一体となったブランド力の強さ、戦略がより一層必要となる。 『今後の予測』 <ul style="list-style-type: none"> ・観光ビジョンの基づき、体系的、事業連動、公民連携しながら官民一体となった観光まちづくりを進めしていく。
	・新嵐山の再生にあたっては、その取組が町民の福祉の増進につながるよう進める必要がある →「あり方の骨格」で位置付けるとともに、今後のグランドデザイン策定においても町民の意見を聞きながら進める ・観光ビジョンの全町の共有が必要ではないか →関係団体とは共有をしているが、今後においても同様に、また事業を進めるにあたってしっかりと全町共有をしていく ・日高山脈国立公園をどのように活用していくのか →登山など公園内の活用という視点ではなく、景観という視点で観光振興につなげていきたい

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

この施策に対して 住民・審議会・議会 からどのような意見 や要望が寄せられ、どのように改善 したか。	・新嵐山の再生にあたっては、その取組が町民の福祉の増進につながるよう進める必要がある →「あり方の骨格」で位置付けるとともに、今後のグランドデザイン策定においても町民の意見を聞きながら進める ・観光ビジョンの全町の共有が必要ではないか →関係団体とは共有をしているが、今後においても同様に、また事業を進めるにあたってしっかりと全町共有をしていく ・日高山脈国立公園をどのように活用していくのか →登山など公園内の活用という視点ではなく、景観という視点で観光振興につなげていきたい

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組 に対する 意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組 に対する 意見	・伏美岳の整備。 ・インバウンドを求めているのか町民に確認する必要がある。 ・新嵐山の観光について、コストをかけずに色々試してほしい。 社会貢献団体へアイデアを募るもの良いのではないか。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					